

平成31年(2019年)

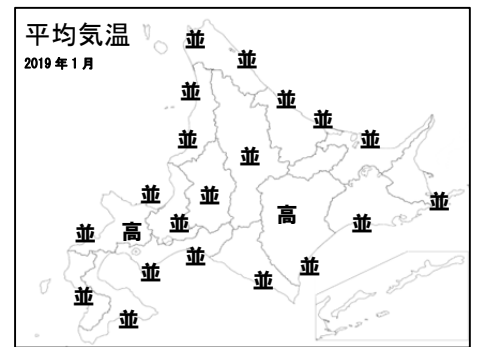
札幌管区気象台 気象防災部
地球環境・海洋課
(2019年2月1日)

北海道地方 1月の天候

気候表 (データは速報値であり、後日変更される場合があります)

官署名	本年			平年差・平年比			降雪の 深さ合計 cm	月最深 積雪 cm
	気温 ℃	降水量 mm	日照時間 h	気温 ℃	降水量 %	日照時間 %		
稚内	-4.1	56.0	35.5	+0.6	66	78	77	23
北見枝幸	-5.5	85.0	84.5	+0.4	102	107	183	77
羽幌	-4.1	130.5	48.7	+0.6	114	86	178	92
雄武	-5.7	44.5	110.7	+0.7	98	114	109	56
留萌	-3.9	84.0	52.2	+0.5	84	102	170	63
旭川	-6.8	68.5	72.4	+0.7	98	98	140	61
網走	-5.3	50.0	108.9	+0.2	92	95	96	49
小樽	-2.9	86.0	54.2	+0.4	60	82	121	74
札幌	-3.0	86.0	102.5	+0.6	76	111	125	65
岩見沢	-5.0	104.5	74.6	+0.5	93	79	187	120
帯広	-6.1	12.0	209.3	+1.4	28	114	28	24
釧路	-5.0	17.5	208.0	+0.4	41	114	23	12
根室	-3.7	22.5	178.1	0.0	63	117	36	23
寿都	-2.0	86.5	35.0	+0.4	77	118	115	58
室蘭	-1.6	20.0	82.3	+0.4	36	92	28	9
苫小牧	-3.5	20.5	153.0	+0.3	51	108	37	15
浦河	-2.6	25.5	143.5	-0.1	69	103	56	19
江差	-0.5	63.0	43.3	+0.3	74	134	44	9
函館	-2.3	64.5	100.3	+0.3	84	97	102	49
倶知安	-4.7	160.5	46.7	+1.0	85	95	253	166
紋別	-5.2	37.5	96.9	+0.4	83	95	77	50
広尾	-4.0	30.5	198.3	+0.5	40	124	42	31

階級分布図



注)「)」付きの値は欠測を含む。「]」付きの値は一定の割合以上の欠測を含む。「×」は欠測を示す。

(気温は平年差(℃)、降水量・日照時間・降雪量は比(%)を示す)

	気温	階級	降水量	階級	日照時間	階級	降雪量	階級
北海道22地点平均	+0.5	並	73	少	103	並	73	か少
日本海側10地点平均	+0.6	並	83	少	98	並	72	か少
ホトツ海側4地点平均	+0.4	並	94	並	103	並	87	少
太平洋側8地点平均	+0.4	並	52	少	109	多	67	少

月統計値の記録 (第3位まで)

(詳細は、最終ページの表を参照してください。)

月間日照時間 (多い) 第3位 広尾

階級は、概ね「高(多)」、「並」、「低(少)」の3段階に分けています。
各階級の幅は、平年値の作成期間(1981年~2010年の30年間)における各階級の出現率が1:1:1となるように決めてあります。
また、平年値作成期間内の上位、下位10%の範囲に入る場合は「か高(多)」、「か低(少)」(か→かなり)で表します。

概況

— 『並温・少雨（少雪）・並照』 冬型の気圧配置となる日が多かったが、降雪量は少なかった —

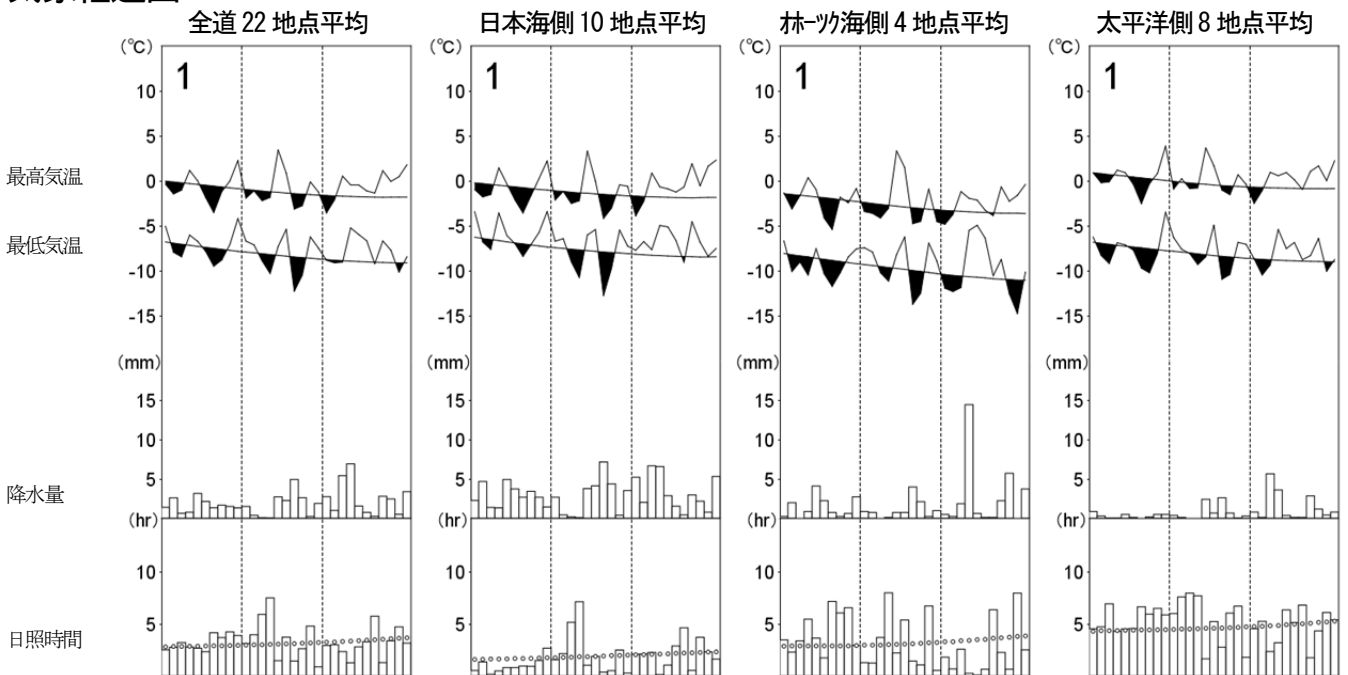
この期間の天気は、冬型の気圧配置の影響で日本海側を中心に雪の降った日が多く、大荒れとなった日もあったが、オホーツク海側南部や太平洋側東部では晴れた日が多かった。下旬は低気圧の影響で全道的に雪の降った日も多く、大雪となった日があった。気温はいずれの旬も平年並で、月平均気温も平年並となった。降水量は上旬は平年よりかなり少なく、中旬は少なかったが、下旬は多く、月降水量は少なかった。日照時間は中旬は平年より多かったが、下旬は少なく、月間日照時間は平年並だった。降雪量は上旬・中旬は平年よりかなり少なかったが、下旬は多く、月降雪量はかなり少なかった。

上旬:1~3日は冬型の気圧配置となって日本海側を中心に雪の降った所が多かったが、太平洋側東部を中心に晴れた所も多かった。4日は低気圧を含む気圧の谷の影響により日本海側で雪の降った所があったが、オホーツク海側や太平洋側東部では概ね晴れた。5日は低気圧の通過やその後の冬型の気圧配置の影響で雪の降った所が多かったが、オホーツク海側や太平洋側では晴れた所もあった。6~7日は冬型の気圧配置となって日本海側を中心に雪の降った所が多かったが、太平洋側東部を中心に晴れた所も多かった。8日は気圧の谷の影響により日本海側で雪の降った所が多かったが、オホーツク海側や太平洋側東部では概ね晴れた。9~10日は冬型の気圧配置となって日本海側を中心に雪の降った所が多かったが、太平洋側を中心に晴れた所も多かった。

中旬:11日は冬型の気圧配置となって日本海側を中心に雪が降ったが、太平洋側では概ね晴れた。12日は冬型の気圧配置が緩んで太平洋側を中心に晴れた所が多かった。13~14日は高気圧の張り出しの中となって広い範囲で晴れた。15日は前線を伴った低気圧が通過して雪や雨の降った所が多かった。16~17日は冬型の気圧配置となって日本海側を中心に雪が降り、大荒れとなった所もあったが、オホーツク海側南部や太平洋側東部では晴れた所も多かった。18日は冬型の気圧配置となって日本海側を中心に雪が降ったが、太平洋側東部では概ね晴れた。19日は冬型の気圧配置が緩んでオホーツク海側や太平洋側を中心に晴れた所が多かったが、日本海側では雪の降った所もあった。20日は低気圧を含む気圧の谷の影響で雪の降った所が多かった。

下旬:21日は冬型の気圧配置となって日本海側やオホーツク海側を中心に雪が降り、大荒れとなった所もあったが、太平洋側では晴れた所が多かった。22日は冬型の気圧配置が次第に緩み、太平洋側では晴れた所が多かったが、日本海側では雪の降った所が多かった。23~24日は前線を伴った低気圧が通過して全道的に雪が降り、大雪となった所もあった。日降雪量は24日に滝上で51cmなど。25~26日は冬型の気圧配置となって日本海側やオホーツク海側では雪の降った所があったが、太平洋側では晴れた所が多かった。27日は冬型の気圧配置が次第に緩み、広い範囲で晴れた。28日は前線を伴った低気圧の影響で全道的に雪が降った。29日は低気圧を含む気圧の谷の影響により広い範囲で雪が降ったが、次第に高気圧の張り出しの中となり晴れた所も多かった。30日は高気圧に覆われてオホーツク海側や太平洋側を中心に晴れたが、日本海側では曇った所も多かった。31日は寒冷前線が通過して広い範囲で雪が降ったが、次第に冬型の気圧配置となって太平洋側を中心に晴れた所も多かった。

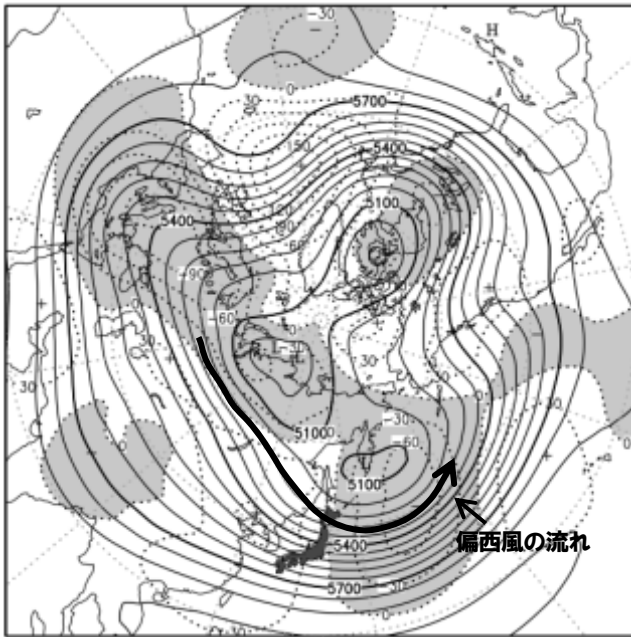
気象経過図



旬別気候表 (気温は平年差 (°C)、降水量と日照時間は平年比 (%) を示す)

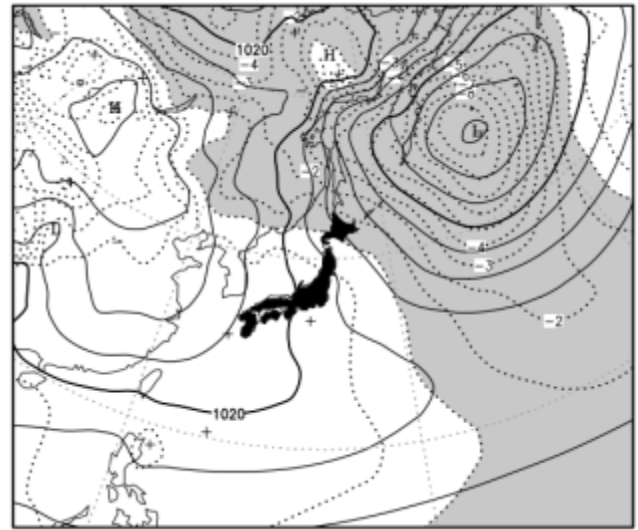
	北海道全域			日本海側			オホーツク海側			太平洋側		
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
気温	0.0 並	+0.2 並	+1.2 並	+0.2 並	0.0 並	+1.4 高	-0.4 並	+0.3 並	+1.3 並	-0.2 並	+0.3 並	+0.9 並
降水	50 か少	65 少	110 多	73 少	83 少	94 並	61 少	56 少	162 多	15 か少	47 少	105 多
日照	99 並	119 多	91 少	61 少	126 多	100 並	149 か多	107 並	66 か少	120 か多	116 多	93 少

1月の大気の流れ（北半球の平均天気図の特徴）



1月の500hPa天気図

実線：等高度線（m）、点線：高度の年平均偏差（m）
 陰影部は、平年より高度の低い負偏差の領域を示す。この領域では平年より気温が低い傾向がある。
 日本の上空では、風は等高度線に沿って西から東に吹いている。等高度線が南北に波打っている状態は偏西風が蛇行していることを、等高度線の間隔が狭い所では偏西風が強いことを示す。



1月の地上天気図

実線：等圧線（hPa）、点線：気圧の年平均偏差（hPa）
 陰影部は、平年より気圧が低いことを示す。この領域では、平年より気圧の谷や低気圧の影響を受けやすい。

・500hPa（上空約5500m）天気図

偏西風は中央シベリアで北に蛇行し日本の東で南に蛇行したため、北海道付近は東谷となり南からの暖かく湿った気流の影響を受けにくかった。北海道付近は平年との差が小さく寒気の流れ込みは平年程度だった。

・地上天気図

シベリア高気圧は平年より勢力が強かった。アリューシャン低気圧も平年より強く、北海道付近は冬型の気圧配置の日が多かった。また、沿海州から北海道付近にかけて負偏差となり、気圧の谷の影響を受けた時期もあった。

北海道上空の気温経過

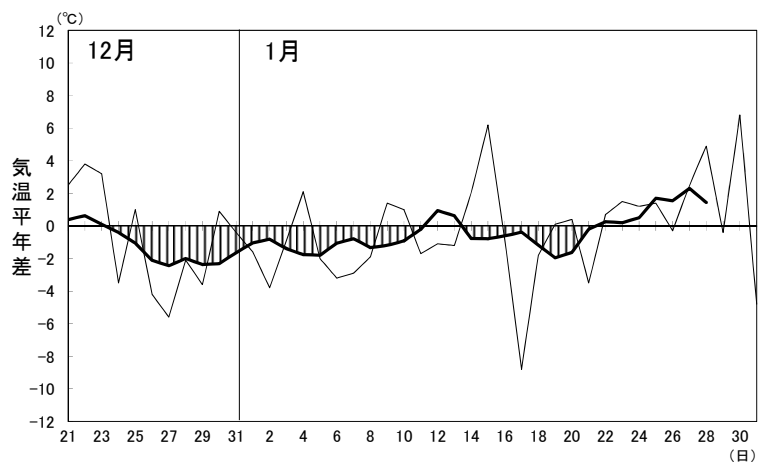
1月の札幌における850hPaの気温年平均差

・7日移動平均（太線）

中旬までは平年を下回る時期が多かったが、下旬は概ね平年を上回った。

・日別値（細線）

中旬までは数日の周期で変動し、下旬は平年を上回る日が多かった。



12月下旬から1月の札幌における850hPa(上空約1500m)気温年平均差
 (細線：日別、太線：7日移動平均、陰影線：7日移動平均の負偏差)

月統計値の記録の詳細（第3位まで）

期間	要素	順位	地点	本年	平年差(比)	これまでの1位(年)	統計開始年
1月	月間日照時間 (多い)	第3位	広尾	198.3 h	124 %	206.3 (2012)	1958

お問い合わせ先

札幌管区気象台気象防災部 地球環境・海洋課
TEL (011) 611-6174